

議事録（概要版）

会 議 名	2024 年度（令和 6 年度）第 1 回福山市男女共同参画審議会
議 題	報告事項：(1)2023 年度（令和 5 年度）福山市男女共同参画基本計画（第 5 次）の年次報告について (2) 審議会等への女性の参画状況について (3)2024 年度（令和 6 年度）福山市男女共同参画推進計画について
日 時 場 所	2024 年（令和 6 年）10 月 29 日（火）14：00～15：10 福山市役所 本庁舎 中会議室
出 席 者	高橋委員、正保委員（会長）、後藤委員（副会長）、平賀委員、岩木委員、辻川委員、陶委員、中田委員、平木委員
欠 席 者	皿谷委員、市瀬委員、馬場委員、加藤委員、梶田委員、佐藤委員
事 務 局	多様性・スポーツ推進担当部長、多様性社会推進課長、多様性社会推進課男女共同参画担当次長 ほか
そ の 他	若者・くらしの悩み相談課長
傍 聴	3 名

1 報告事項

- (1) 2023 年度（令和 5 年度）福山市男女共同参画基本計画（第 5 次）の年次報告について
- (2) 審議会等への女性の参画状況について
- (3) 2024 年度（令和 6 年度）福山市男女共同参画推進計画について
→ 事務局が基本目標ごとに説明し、続いて質疑応答を行った。

質疑	応答
① 小学校用男女共同参画教育参考資料と教師用手引書の活用校数が、市内小学校 74 校中 72 校なのはなぜか。	① なぜ 72 校なのかについての状況は把握していない。
② 男女共同参画情報誌「イコール」の発行回数及び部数について、インターネットでも見ることができると思うが、アクセス数などを出した方がよいのではないか。	② アクセス数のウェブ解析はしていないが、紙ベースの資料の活用はしていかなければならないので、より活用していくよう努めていく。
③ 小学校で使われている教材について、子どもたちにアンケートをとって、啓発につながっているか確認する必要があるのではないか。	③ 教材については、授業等で副教材として使っている。児童生徒の満足度についての数字はないが、従前の教材よりも見やすく親しみやすい内容に変えて、低学年向け、高学年向けのものを使っている。
④ 審議会等への女性の占める割合が上がっておりよいと思う。選出の母体となる団体に女性が少ないために女性委員の登用が進まない要因とのことだが、公募委員の採用に力を入れてみてはどうか。 公募委員における女性の割合はいくらか。	④ 選出団体の中で女性の推薦がないところに対する解決策として、公募委員をもっと取り入れていくことは有効だと思うので、審議会の所管課にも働きかけをしていきたい。 公募委員における女性の割合は 53%である。
⑤ 女性人材リストへの登録について、現状の 47 人を増やすために広報をもっとしていくべきではないか。	⑤ 男女共同参画の推進員を育成するセミナーなどを実施しており、そこに参加された方などに声をかけるなどしているが、セミナーに参加された方で、発表や課題を提出された方に声をかけてい

⑥ ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数が伸びていないが、分析はしているのか。 ⑦ デートＤＶ予防啓発講座について、市内の高校・大学を対象に実施しているが、中学校で実施しない理由は何があるのか。 ＤＶについての自覚のない生徒や何がＤＶか知らない生徒もいるので、ぜひ義務教育の中に取り入れてもらいたい。 ⑧ ハラスメント防止研修について、以前市議会議員にも講習会をしたかどうかという提案をしたが、その後どうなっているか。 ⑨ Ｐ２３に職場におけるセクハラの有無の確認（事業主）のデータがあるが、これは事業主に対してのものか、それとも従業員に対してのアンケートなのか。 ⑩ 交際相手からのデートＤＶが男女ともに大幅に増加しているとあるが、女性だけではなく男性もＤＶを受けているデータがあれば教えてほしい。 ⑪ ＬＧＢＴＱに関して、当事者である生徒に対して中学校では取組がされておらず、教育委員会も学校任せとの回答であった。当事者である子どもたちはトイレや着替えなどで悩んでいる。ぜひ早急に取組をお願いしたい。 ⑫ 「女性の働く環境改善補助金」については、いくら補助しているのか。 ⑬ 今年度から始めている重層的支援体制について、自分から相談できない引きこもりの方やヤングケアラーに対しての取組も必要である。 ⑭ 男女共同参画に関する啓発ＤＶＤや図書の貸出とあるが、どこに設置しているのか。	るため、手を挙げるだけで女性人材リストに登録できるというわけではない。 ⑥ 認定事業者の更新が３年に１回あるが、更新のハードルが一つ上がるような認定の仕組みになっている。そのハードルを越えられないところについては、今後関係部局とも連携し対策を打つ必要はあると考えている。 ⑦ 最近は中学校からの相談・問合せも多く、デートＤＶが低年齢化していると感じているところだ。今年度は、市内の公立中学校の養護教諭を対象に人権擁護委員による研修を実施した。 ⑧ 詳しい状況は確認していないが、議会の方でされているとは聞いている。 ⑨ 事業主の意見である。 ⑩ ２０２３年度は４２７人の相談があったが、そのうち５４人が男性からの相談で、約１割にあたる。 ⑪ 今年出した「みんななかま」はそこも含めた記述にしているので、教材としてしっかり使用してもらえたら少しずつ広がると思う。 ⑫ ２０２３年度については、交付実績が２３０万円であり、内容は女性専用トイレなどを充実するための改修工事費などである。対象経費の２分の１以内、上限３５万円である。 ⑬ 若者・くらしの悩み相談課にて、青少年・若者に対しての相談を受けている。本人自らの相談が難しい場合は、保護者の方からの相談も受けている。また、すこやかセンターの健康推進課でも引きこもりの相談窓口があり、保健師によるカウンセリングなどできる。ヤングケアラーについてはネウボラ推進課で子育て支援も行っているもので、そういったところと連携しながら対応している。 ⑭ 若者・くらしの悩み相談課に置いてある。
---	---

⑮ 中央図書館に置かない理由は何かあるのか。 ⑯ それぞれのブロックの図書館に置いてあってもよいのではないか。 ⑰ 今年度の男女共同参画フォーラムの状況はどうだったのか。 ⑱ 生活保護の方が大学や専門学校に行くための補助金を増やしてもらえたらと思う。	⑮ 男女共同参画センターがあった時は、そちらに色々な情報発信を担っていたが、現在はセンターを廃止したため、その経緯で現在の場所に設置している。 ⑯ 図書はあると思う。啓発DVDは、視聴する際誰が説明して誰が受けるかということもあり、また高価なものでもあるので、現在の貸出のスタイルになっている。 ⑰ 実行委員会で検討した演題に沿って話をされ、混乱もなかった。 ⑱ 確かに人権に関わることは多岐にわたっており、様々な社会的弱者と言われる人たちがたくさんいらっしゃることは事実なので、できることからつなげていけたらと思う。
---	---